

■澤柳政太郎 官僚として文部行政の中核的位置を占めた後、成城小学校を中心に新教育運動を指導した異色の教育学者。
さわやなぎまさたろう
薩摩藩士密航1865＝ 信濃国松本城下侍屋敷で、同藩士小寺利憲の三男で戸田家家臣に入婿した澤柳信任の長男に生まれる。

明治維新・1868＝ 4歳：明治維新となって、失職した父が地方官吏となり、各地を転々とする間、

初の日刊新聞1870＝ 6歳：この年、祖父沢柳信久が死去。
廃藩置県・1871＝ 7歳：廃藩置県後、父が山梨県の官吏となり、

明治6年政変 1873＝ 8歳：ようやく登場した山梨県甲府の小学校(徽典館)に2年遅れで入学するが、
佐賀の乱・1874＝ 9歳：父の退職に伴い、中退して帰郷し、開智学校下等小学第八級に編入され、第五級を卒業。
初の民間工場1875＝10歳：父の大蔵卿出仕に伴う転勤のため、一家で上京、東京師範学校下等小学第五級に編入、

成績優秀で進級早く、学齢相当学級に追いつき、
大久保暗殺・1878＝13歳：弟が死去、末弟誕生。上等小学第三級を卒業。漢学塾(青藍舎)に学んだ後、1年早く東京府中学校に入学、
上田万年と同級、1年上の狩野亨吉とは生涯の親友になる。
1880＝15歳：2年で卒業し、東京大学予備門に入学。

明治14年政変1881＝16歳：この間、父が財産運用に失敗して没落、

岩倉具視没・1883＝18歳：上田万年とともに、東京大学文学部に進み哲学科に入学。
秩父事件・1884＝19歳：寄宿舎生活で、上級生の日高真実・清沢満之・岡田良平らとも友人となり、

夏期休暇に、日高らと東北旅行。この年、改組で帝国大学となる。
帝国大学始・1886＝21歳：父が退職し隠居、同郷出身の実業家青木貞三の援助を受けることになり、雲照律師にも紹介される。
国民之友始・1887＝22歳：祖母が死去。卒業。貸費生だったため文部省総務局雇となり、東京専門学校・哲学館講師も勤める。
初の対等条約1888＝23歳：青木が死去、雲照律師の(十善会)を再興させて、仏教に帰依、「十善戒」により生活を律し始める。
帝国憲法発布1889＝24歳：「十善大意」刊、以後も(十善宝窟)に寄稿。処女作「公私学校比較論」。昇進著しく、文部書記官となり、
帝国議会始・1890＝25歳：山内提雲の長女初と結婚。文部大臣大木喬任の秘書官を兼務、そのもとで辣腕を振るい始めるが、
足尾鉞毒始・1891＝26歳：長男が誕生。大臣転任に伴う秘書官辞任後、大木に渡したメモから修身教科書検定機密漏洩事件が発覚したため、責任をとって文部省を依願免官となる。謹慎生活に入り、読書・翻訳・修行に邁進、
大本教・1892＝27歳：清沢満之の懇請を断りきれず、京都の私立大谷尋常中学校長、真宗大谷派教学部顧問となったが、
郡司千島探検1893＝28歳：清沢らと進めた学制改革が挫折し、同校の廃止により解職され、
日清戦争始・1894＝29歳：群馬県尋常中学校長に転じる。長女が誕生。処女出版以来、多くの著作・翻訳出版続けてきたが、「教育者の精神」出版で教育界指導者へ歩み始める。
日清戦争終・1895＝30歳：小学校教科用図書審査委員、

白馬会・1896＝31歳：文部省へ帰り、第二高等学校長に就任、
八幡製鉄始・1897＝32歳：*第一高等学校長を経て、普通学務局長へと異例の昇進を果たす。以後8年、中等学校法制の整備、初等教育
子規句歌革新1898＝33歳：*第一高等学校長を経て、普通学務局長へと異例の昇進を果たす。以後8年、中等学校法制の整備、初等教育
法制の確立、小学校教科書国定制の実施、義務教育6年制の施行準備など、戦前の普通教育制度を確立して
行くとともに、高等商業学校・次々展開される高等師範学校の新設拡充にも参与。帝国教育会常議員。

Bushidou・1899＝34歳：次男が誕生。
田中正造直訴1901＝36歳：三男が誕生。翻訳「政治道徳学」。ハンブルグでの第13回万国東洋学会に出席のため、初めて渡欧し、
教科書疑獄・1902＝37歳：帰国。清沢満之が死去。
日比谷公園・1903＝38歳：四男誕生。
日露戦争終・1905＝40歳：ロンドン大学に招かれて渡欧直後、牧野伸顕に懇請されて急遽帰国し、文部次官となる。

満鉄発足・1906＝41歳：清国皇帝より二等第一双宝星を贈られる。この間、東北・九州帝大、奈良女子高等師範が開設に至る。
韓国反日暴動1907＝42歳：次女が誕生。腸チフスで九死に一生、文部次官を依願免官して静養中、次々著作を進め、
アヲブ創刊・1908＝43歳：父信任、続いて雲照律師が死去。初の随筆集「退耕録」。貴族院議員(勅選)。代表的著作「実地的教育学」を
伊藤博文暗殺1909＝44歳：父信任、続いて雲照律師が死去。初の随筆集「退耕録」。貴族院議員(勅選)。代表的著作「実地的教育学」を
刊行。大学昇格をめざす運動が高じて申酉事件となった東京商業学校校長事務取扱、
韓国併合・1910＝45歳：高等教育会議員。長男が死去し悲嘆。ロンドン大学講演予定だった「我が国の教育」刊行。心こめた「孝道」
を刊行、国民に読み継がれて行く。

大逆事件判決1911＝46歳：五男が誕生。事件処理後、東北帝国大学初代総長となり、帝国大学初の女子学生の入学を認める。
明治天皇没・1912＝47歳：奥田文相の四帝大総長一新に伴い、京都帝国大学総長に転じると、大学の権威が失われるとして怠慢と見
大正政変・1913＝48歳：なす7人の教授の罷免を強行、慣行を無視したとして教授団の反対に会い(沢柳事件)となり、
第一次大戦始1914＝49歳：三女が誕生。終結させた後、総長職を依願免官し、下野。文学博士。

21ヶ条要求・1915＝50歳：随筆集「随感随想」。
民本主義・1916＝51歳：*帝国教育会会長に就任して活動再開、以後没するまで教員の地位向上や自己研修の振興などに努める一方
、旭日中綬章を受けた後、再建を依頼されて、私立成城小学校に就任すると、
ロシア革命・1917＝52歳：成城中学校と改称、理想実現すべく成城小学校を創設、発議して日本初の全国小学校女教員会開催、
本格政党内閣1918＝53歳：母が死去。以後、官民の諸会長や委員を相次いで引受け、(帝国教育)に執筆続けながら、
ペルシヤ条約・1919＝54歳：勲二等瑞宝章。帝国教育会専務理事に野口援太郎を迎えて体制確立の一方、成城小学校に迎えた小原国芳
が才覚で父兄の人気集める学校にして行く。

原敬首相暗殺1921＝56歳：欧米教育視察旅行に出、
水平社結成・1922＝57歳：多数の国を回って、帰国。旅行中に小原が創立していた成城第二中学校の校長に就任するも、自らの理想
とは齟齬をきたすようになって行く。帝国教育会では教育会館建設計画を発表。

関東大震災・1923＝58歳：サンフランシスコでの世界連合教育会に出席、帰国後、関東大震災が起り、帝都復興院評議員。日本実業
教育会長、日本国際教育会会長、
護憲三派圧勝1924＝59歳：日華学生協会会長ほか。この年、小原と不和になり成城を離脱していた赤井米吉が明星学園を設立開校。
治安維持法・1925＝60歳：還暦記念で「澤柳全集」が刊行され、(教育問題研究)が特集号発刊。太平洋問題調査会第一回ハワイ大会に出
席、帰国。中華民国視察に出、帰国。

円本時代始・1926＝61歳：成城高等学校創立し校長。仏教諸宗派大学統合の大正大学初代学長。財団法人成城学園初代理事長。
金融恐慌・1927＝62歳：*成城高等女学校創立し、校長。太平洋問題調査会第二回ハワイ大会・トロントでの第二回世界教育会議・
リオデジャネイロでの第十三回万国商事会議に出席ヨーロッパ諸国を回り、シベリア経由で帰国したが、そ
の間感染したしょう紅熱となり、没した。
勲一等瑞宝章追贈。翌年教育会館が竣工。